Ｎｏ．４５８【２０２１年５月２８日配信】
貝塚（担当：児玉）

こんにちは。文化財課の児玉です。2021 年 5 月 26 日、ユネスコの諮問機関であるイコモスが本市の三内丸山遺跡と小牧野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を勧告しました。世界遺産への正式登録は、7 月下旬頃に開催予定の世界遺産委員会で結論が出る見込みです。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つ、七戸町にある二ツ森貝塚のガイダンス施設「二ツ森貝塚館」が 4 月にオープンし、さっそく見学に行ってきました。旧天間東小学校の職員室や放送室などを展示室として改修し、縦約 1.2 メートル、横約 5 メートルの大型の剥ぎ取り貝塚断面のほか、土器や石器、骨角器、墓から出土した人骨、埋葬された犬の骨などが展示されていました。縄文時代においても、人と犬との間に強い絆があったことを物語っています。

この施設から徒歩約 10 分のところには「二ツ森貝塚」があります。小川原湖に面した段丘上に立地する大規模な貝塚を伴う縄文時代前期前葉～中期後葉（約 5,500～4,000 年前）の集落跡で、貝塚は下層にハマグリやマガキなどの海水性、上層にヤマトシジミなどの汽水性の貝類の堆積が確認されています。

そもそも「貝塚」とは、過去の人々が貝殻等を捨てた場所、またはそれを伴う遺跡のことで、貝殻の炭酸カルシウムによる土壌中和作用の結果、人骨・獣骨などが腐らずに残り、当時の人々の食生活や環境の復元に有効な資料が得られるため、古くから考古学等の調査・研究の対象となっていました。

青森県内では、主に小川原湖や八戸周辺などの太平洋側に貝塚が分布しています。青森市内においては、本県では数少ない縄文時代晩期（約 3,000～2,300 年前）の貝塚が、陸奥湾沿岸部の野内字浦島にある「大浦遺跡」から見つかっています。
本遺跡からは、塩を作るための土器（製塩土器）の破片が多数出土しているほか、石器では石鏃・石錐・ナイフ類、骨角器では鹿角製の釣針・銛頭・刺突具なども見つかっています。動物遺存体（骨や貝殻などの総称）では鹿やイノシシ、鳥類のほか、魚類ではマダイ・スズキ・ボラ・メバルなど、貝類ではレイシガイやクボガイ、カサガイの仲間など岩礁域に生息するものが多く見つかっています。

なお、大浦遺跡から出土した製塩土器や鹿角製の釣針・銛頭、貝類などは、「縄文の学び舎・小牧野館」でご覧いただけます。

二ツ森貝塚の貝塚断面
（出典：JOMON ARCHIVES〈七戸町教育委員会〉）